SY4-2

アトピー性皮膚炎児を取り囲む環境整備

山本　貴和子、大矢　幸弘
国立成育医療研究センターアレルギーセンター・研究所エコチル調査研究部

アトピー性皮膚炎はこどものよくある慢性皮膚疾患の一つである。全国調査（エコチル調査）の結果から、2 歳児の 15.3%はかゆい湿疹があると保護者が申告していたが、アトピー性皮膚炎の医師診断をうけた児は 7.3% であり、適切に診断までたどり着かない児が多いことが懸念されている。ガイドラインに基づいた標準治療により早期寛解導入とコントロール良好な長期寛解維持が求められる。

1 か月健診時に分子レベルからも早期にすでにアトピー性皮膚炎を発症している児がいることが明らかになっているため、生後早期からアトピー性皮膚炎を考慮していく必要があり、妊娠中のアレルギーに関するマタニティクラスの普及が期待されている。新生児期からの様々な早期介入によりアトピー性皮膚炎の発症予防や重症化予防・その後の食物アレルギーを含めたアレルギーマーチの阻止が期待されるところである。したがって、医療機関を受診する前の健診や新生児訪問など多職種による保健指導も重要となってくる。また、かゆい湿疹により睡眠障害や不登校やいじめやメンタルヘルスへの影響も問題となってくる。保育所や学校との連携も求められている。

子どもたちの健やかな成長を願い、小児保健分野の進歩・発展を目指して、小児保健に関連する多職種が協力して、アトピー性皮膚炎児を取り囲む環境整備を考えていく機会にしたいと考えている。

参考文献

1.　公益社団法人日本皮膚科学会 , 一般社団法人日本アレルギー学会 , アトピー性皮膚炎診療ガイドライン作成委員会 , 佐伯秀久 , 大矢幸弘 , 山本貴和子 , 他 . アトピー性皮膚炎診療ガイドライン 2021. 日本皮膚科学会雑誌 . 2021;131(13):2691-777.
2.　Yamamoto-Hanada K, Saito-Abe M, Sato M, Ohya Y, at al. Allergy and immunology in young children of Japan: The JECS cohort. World Allergy Organ J. 2020 Nov 7;13(11):100479
3.　Yamamoto-Hanada K, Saito-Abe M, Ohya Y, et al. mRNAs in skin surface lipids unveiled atopic dermatitis at 1 month. J Eur Acad Dermatol Venereol. 2023.
4.　Yamamoto-Hanada K, Kobayashi T, Ohya Y, et al. Enhanced early skin treatment for atopic dermatitis in infants reduces food allergy. Journal of Allergy and Clinical Immunology. 2023.
5.　Inuzuka Y, Yamamoto-Hanada K, Ohya Y, et al. Dissemination of atopic dermatitis and food allergy information to pregnant women in an online childbirth preparation class. Journal of Allergy and Clinical Immunology: Global. 2022;1(1):24-6.
6.　学校生活におけるアトピー性皮膚炎 Q&A　令和 3 年度改訂 日本学校保健会

Presented by Medical*Online